

日本ボストン会 会報

第43号



再建なった六角堂

退任のご挨拶

長島雅則

ついこの間、会長のご挨拶をさせていただいたと思っていましたら、あれから、もう丸二年の歳月が、過ぎてしまいました。「皆様のお役に立てることを願っております。」とご挨拶させていただきましたが、何もこれと行ってできなかつたと、正直、反省しております。

それでも、いくつかの行事には参加させていただき、会員の皆様と有意義な楽しい時をご一緒できたことに、大変感謝しております。また、当会と関係の深いThe Boston Society of Japanの昨年6月6日に催されたAnnual Dinnerに、出席するチャンスがありました。その時は、MIT Media Labの所長の伊藤穰一さんがDistinguished Honoreeとして、また、長年、会長であられたPeter M. Grilliさんの功績が表彰された記念すべき会で300名ほど参加された盛大なものでした。

以前にも述べたと思いますが、Bostonは、私にとってはとても大きな意味を持った街です。MITで学んでいた当時、Charles River越しに、あのクリアファイルと同様のBostonの街の景色をいつも眺めていました。そうすると、私はアメリカにいるのだという実感といいますか、何か使命感のような気持ちが湧いてきたものです。

今、Boston Logan International Airportに着きますと、トンネルを通過してBostonの街へ、そしてCambridgeへと向かいます。その通称“Big Dig”といわれるトンネルを通る度に、私がMITで学んだことが無駄では無く、少しは役に立っていると実感できて、本当に幸せな気持ちになります。（“Big Dig”は、私が開発に関わったCADシステム「GDS」で設計されました。）

ここ3年ほどは、MIT Alumni AssociationのBoard Memberとして、年に約4回ほど、MITを訪れるチャンスに恵まれています。丁度、昨日（2014年9月22日）、Bostonから帰国したところ。16日からMITに滞在し、Annual Fund Board Meeting, Alumni Association Board

Meeting, Alumni Leadership Conference に参加して参りました。今、MITでの大きな問題の一つは、今後の教育がどのように変貌していくかということです。勿論、現代にマッチした分野の教育内容の検討は絶えず行われなくてはなりません。そしてまた、それとは次元の異なる大きな問題も浮かび上がって来ています。それは、コンピュータのネットワークの発達により、オンラインのMITx|edXと呼ばれる多くのコースが設けられて来ていることです。世界中の人々が、居ながらにして、MITのいろいろな分野のコースを勉強することが可能になりました。そうなることによつて、On Campusの教育がどのような役目を担うのかを考えることとなります。勿論、On Campusの教育でも、オンラインのコース



をうまく活用して新たな教育システムが作り上げられて行くわけです。そして、皆が知恵を絞って世の中が絶えず未来へ向かって進んで行く過程に感動せざるを得ません。

また、余談になりますが、今回、空港へ向かう時に、一般のTaxiでは無く、Uberという新しいTaxiを利用しました。タクシー関連の規制の厳しい東京でもサービスが始まったと聞いています。思ったよりもシステム



が簡単にセットアップでき、スムーズに手配できました。料金も安いですし、とても綺麗な車で、運転手さんも親切です。世の中は、快適に便利になって行くことが実感できました。

さて、日本ボストン会の次期会長は、Harvard Business School、日本リサーチ・センター長の佐藤 信雄さんが就任されます。佐藤さんも、Harvardへ頻繁に訪れていらっしゃるの、また、その辺の話もお聞き出来るのが、大変楽しみです。

佐藤 信雄さん、どうかよろしくお願ひいたします。

これで、どうか無事に、会長のバトンをお渡しできるのを嬉しく存じます。

皆様には、この2年間、いろいろとお世話になり、誠にありがとうございました。

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

総会

日時：2014年11月14日(金)
午後6時～
場所：NEC三田クラブ
会費：¥6,000 (同伴者¥5,000)
(前納の場合) 本人同伴者共 ¥5,000
振込先：みずほ銀行浜松町支店 日本ボストン会
普通口座：1578981

詳細：[HP](#)

申込・問合せ：[E](#)

紅葉狩り

日時：2014年11月13日(木)
午前8時～午後7時頃
集合・解散：東京駅
行先：塩原溪谷
費用：約¥10,000

詳細：[HP](#)

申込・問合せ：[E](#)



秋季ゴルフ懇親会

日時：2014年11月20日(木)
午前8時半イン
スタート
場所：川崎国際生田緑地
ゴルフ場

詳細：[HP](#)

申込・問合せ：[E](#)

会報電子化について

高木政晃さんを偲ぶ

侯野善彦

日本ボストン会 第4代会長高木政晃さんの訃報に接し謹んでお悔やみを申し上げます。(注：9月14日永眠、享年 86歳)

会報電子化にあたり、会報第1号発刊から第42号までの思いを、高木さんの思い出から纏めました。

私は1984年7月末にボストンの日本国総領事館専門調査員として着任いたしました。翌月7日午後、同月末に開催が予定されていた官民合同会議に、地元の日系企業を代表して出席のお願いをするべく、NEC現地企業の責任者である高木さんをお尋ねしました。その時、高木さんは数日後に日本への帰任が決まっており、後任の久下栄司さんをご紹介頂き、会議への出席をお願いしました。

私は1986年8月に帰国いたしました。在任中に立ち上がった総領事館とニューイングランドにある日系企業で構成された貿易懇話会の会員が帰国された後の懇親会を1988年夏に森啓さんと一緒に立ち上げました。会長は高木さんにお願、歴代総領事の中から在京の方のご都合を伺い、1987年夏から夫妻で参加する集い(ダグウッド会)を始めました。

1992年夏の集いで、総領事館から帰任していた米田隆一さんから、日本ボストン会(仮称)設立の呼掛けがあると報告があり、10月30日に東工大百周年記念館で開催された設立準備会(連絡先藤盛紀明氏)に、米田さんと出席、私は会報担当を引き受けました。

初代の代表幹事には、呼掛けをされたボストン日本人会会長の吉野耕一さん(ハーバード大)をお願いしましたが、2代目は東京在住者から選任するべく幹事会において検討した結果、高木さんが初代総領事であった東海大学教授の井口武夫さんをお願いされました。

当会は発足時に、ハーバード同窓会、MIT同窓会、総領事館を含む懇話会グループの中から、順番に2年後の代表幹事を選任することとし、退任する方が次々期代表幹事を指名することにしておりました。第3代代表幹事はMITから藤崎博也さんが選任され、退任にあたり称号を会長に改称することを提案され、幹事会のご賛同をいただきました。

高木さんは第4代会長として1998年から2年間、ボストン日本人会、北海道・マサチューセッツ協会、京都ボストン交流の会との交流を進めると共に会員を増やすことに腐心され、バトンを第5代会長の茂木賢三郎さん(当時)に委ねられました。

その後体調を崩され、会合に出席される機会が減りましたが、会報にはよく目を通され、私に常に励ましの声を掛けて下さいました。

高木さんのご冥福をお祈りいたします。

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

ハイキング・山の会

詳細：未定 [HP](#)

申込・問合せ：[E](#)

伝統芸能の会

日時：2015年1月18日(日)

午前10時45分(集合)

場所：東京国立劇場

内容：初春歌舞伎公演観劇
「南総里見八犬伝」

場所：国立劇場

料金：10,050円

(昼食代を含む)

詳細：[HP](#)

問合せ：[E](#)

音楽の会

日時：2015年 5月又は6月

会場：関幹事宅

内容：詳細未定 [HP](#)

申込・問合せ：[E](#)

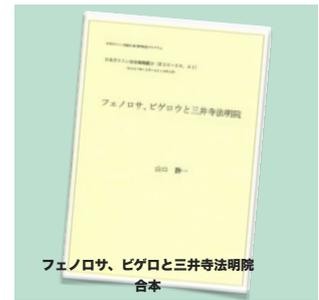
美術と歴史の会

日時：2015年

内容：詳細未定 [HP](#)

申込・問合せ：[E](#)

山口静一先生の「フェノロサ、ビゲロと三井寺法明院」の会報連載分の合本を制作し、国立国会図書館他11か所の図書館、研究者に配布した仕事を最後に、今年から会報の編集・制作の任を、土居陽夫さんにバトンタッチいたします。行事に参加したおりに、記事作りには参加いたしますので、引き続き、よろしくお願いいたします。



Legal Sea Foods 吉野耕一

1961年の春のことでした。当時Bostonには日本食料品の店は一切なく、中華街で中国食品を買うのがやっとだった。長く住んでいる人達は車で乗合ってNew York まで日本食料品の買い出しに出かけていた頃の話です。

Inman Square, Cambridgeに間口一間の小さな魚屋, Legal Sea Foodsがあった。鮪、鯖、鰯、鰯、鰯等馴染みの魚が売られていた。主人のGeorge Berkowitzと息子か奥さんが会計の家族ぐるみの店だった。宗教的理由で金曜日は魚を食べる日（肉を食べれない日）なので、魚の売れる日は木曜日か金曜日に限られていたが、日本人は当然曜日に関係なく魚を買っていた。それに気がついたGeorgeは日本人との商売について尋ねてきたのが彼との長い付き合いの始まりだった。

最初の質問は日本人との商売で何か改善する事があるか？答えは：我々は刺身すなわち生で魚を食べる。刺身用のまな板は清潔で、魚をさばくまな板とは区別する必要がある。翌週訪ねると、白木の新しいまな板で刺身用の切り身を調理していた。そして沢山の日本人客が刺身を買ってくれたと笑顔で迎えてくれた。ずに乗って刺身には山葵と大根が付き物で、中華街に売っていると教えると、翌週には山葵、大根を含む簡単な日本食品の棚が出来ていた。当時鮪は赤身をステーキで食べるだけだったのが、日本人が刺身で大量に買い始めた。何しろBostonの鮪は最高級品なのに、1lbで1ドル以下（当時の交換レートで¥360）でした。鮪のトロは売らないのかの質問に答えて、冷凍室へ案内してくれた。トロ

は腹の部分と示すと、そこは捨てるのか、早く捨てるかと要求した。

商売が好調になった結果隣の肉屋を買収、さらに1968年には隣の建物を買収してLegal Sea Foodsレストランが発足した。紙皿に、紙コップ、長椅子に譲りあいながら座っての食事処だが、魚料理の新鮮さと、安さで常に満員の繁盛だった。日本人の料理人を雇って、焼き物は日本風に調理し、勿論刺身も出した。頼めば御飯、醤油も出してくれた。刺身の切り身は厚めで自立できる位にとの意味をGeorgeはけっして理解する事はなかった。

Inman Squareの食堂の成功に続いて最初の本格的なレストランを1975年にChestnut Hillに開いた。ここではもう紙皿も長椅子も無くなったが値段は相応に高くなった。当時の魚料理レストランと同様予約は取らなかった。1980年にInman Squareの食堂は火事で失われた。Boston Downtownのレストラン開店と丁度同じ日であつた為、色々な噂が流れた。

MIT近くのLegalで食事中に後ろの席から声をかけられた、George夫妻だった。昔ばなしの後、奥さんが吉野夫妻はLegalで度々食事されるかと尋ねた。長時間待たされる店にはめったに来ないと応じた。彼女はGeorgeに名刺を差し上げろと言い、彼は名刺を出して、裏に「吉野氏来店の際は出来るだけ早く案内するように」と書いた。名刺の効果はてき面で、5分以上待つことはなかった。



ワーキンググループ活動報告

活動年表

2013年 (平成25年)

- 11月 8日 ゴルフの会 秋季ゴルフコンペ・懇親会
(川崎国際生田緑地ゴルフ場)
- 11月15日 第21回総会・懇親会 (NEC三田ハウス芝倶楽部)
- 11月30日 紅葉狩りの会 (新宿御苑)

2014年 (平成26年)

- 1月19日 伝統芸能の会 初春歌舞伎「三千両初春駒曳」鑑賞 (国立劇場)
- 4月 5日 お花見の会 (墨田公園)
- 4月25日 ゴルフの会 春季ゴルフコンペ・懇親会
(川崎国際生田緑地ゴルフ場)
- 5月11日 音楽の会 春季ホームコンサート (第9回) 開催
- 5月20日 美術と歴史の会 茨城県五浦バス旅行
(岡倉天心ゆかり地茨城六角堂)

美術と歴史の会

岡倉天心ゆかりの地 茨城県五浦訪問記

三好彰

岡倉天心が明治末に新しい日本画の活動の拠点とした茨城県五浦を平成26年5月20日に訪問した。参加メンバーは山口、吉野夫妻、俣野夫妻、幸野、吉田夫妻、棚橋、大浦(棚橋の友人)、森夫妻、篠崎夫妻、酒井夫妻、三好夫妻の18名(敬称略、順不同)。バスを借り切った日帰りツアーであり、バスは東京・丸ビル前を定刻の8時に出発した。

岡倉天心およびその師であるフェノロサの研究家である山口静一会員が最近の天心研究をバスの中で解説された。それによると従来は天心一派の五浦移転は都落ちだというのが通説だった。しかし財政的な裏付けがあったし、何よりも大観らの作品が早い時期から高い評価を受けたことが示しているように意気に燃えた芸術拠点(日本美術院)だと見られるようになったという。

岡倉天心の著作である『茶の本』はボストン美術館在職中に英語で書かれたが、日本語訳ばかりでなく多くの外国語に翻訳されていて現在でも増刷が繰り返されており、日本の文化を説いた名著として定着している。とこ

ろで天心は屈原の説 The Sages move with the world. (聖人はよく世とともに推移す。

(村岡 博訳)) を引用したが、編集に当たったアメリカ人は意図を理解せずに "The Sages move the world." とwithを削除してしまったので天心・屈原の意図と反対の意味になっているとの山口会員の解説は興味深かった。これを受けて各国語に訳されているのは確かに問題だ。

10時半に茨城

大学五浦美術文化研究所に到着した。山口会員と旧知の間柄である小泉晋弥教授が案内して下さった。2011

年3月11日の東日本大震災の津波で天心が設計した六角堂は台座を残して流失してしまった。しかし有志からの寄金をもとに2012年4月に再建された。なお流失した六角堂を海中



で捜査しているときに大きな水晶が発見されたが、堂の最上部の宝珠内部に有ったものと確認できたのは津波の被害のせめてもの功であろうか。

教授の計らいで六角堂に入った。最近の研究で杜甫の草堂にならった亭子建築、京都頂法寺（六角堂）にならった仏堂、および床の間と炉を備えた茶室の3つの要素から成っていることが明かになっ



たという。宝珠の水晶を仏舎利と見立てればインド・中国・日本を一体化した天心の思想 Asia is oneを具現したとも言えよう。

天心がボストンから取り寄せた大きな板硝子は津波にのまれたが、再建にあたり往時の製法を継承しているイギリスの会社から取り寄せた。その窓の外に穴の開いた奇岩が海の中にいくつも見えた。数億年前のこのあたりは深海にあってメタンガスが噴出していたが、その熱を求める生物が密集し、その生物の出す二酸化炭素が海中のカルシウムと反応してできた炭酸塩コンクリーションだそうで日本近海ではここだけにあるという。

教授の案内で天心旧邸に入った。津波は海面から10メートルを超えるこの家の床下まで入り込んだと言う。地震で壁面が崩れるなどの被害があったそうだ。古い建材を再利用していた。現存している建物は往時の半分とはいう。外には風呂場の跡も有って、きれいな模様のタイルが残っていた。隣接の「亜細亜ハイツ」石碑は事前の耐震対策で無事だった。

教授の丁寧な説明に感謝しつつ見学を終えたが、気が付くと予定を1時間ばかり超過していた。昼食を近くのホテルの広間で摂ったが、ここからの六角堂の眺めも素晴らしかった。ホテル内の露天風呂を楽しんだ人も居る。こ

のホテルは横山大観の旧居跡地に建っているが館内に旧居が移築されていた。そこからの海の眺めは雄大であった。数々の名作を生み出した場所に立って感慨深かった。

午後は県立天心記念五浦美術館に移動した。この地で天心の指導を受けた横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山の作品をじっくり鑑賞した。

帰りのバスの中で、山口会員の紹介で大観の歌う日本美術院の院歌を聴いた。天心の作詞は「谷中うぐいす初音の血に染む紅梅花 堂々男子は死んでもよい 奇骨侠骨開落栄枯は何のその 堂々男子は死んでもよい」と格調高いが、大観が三味線の伴奏で歌うと違った風に聞こえた。

天心の作品 The Book of Tea と The Ideals of the Eastの初版本を山口会員が回覧した。The Sages move the world. の箇所を見つけ出して楽しんだ。

道路事情が良く予定より1時間早く東京駅前に戻って来た。山口会員の指導を得て実りの多い旅になった。

紅葉狩りの会

開催日：2013年11月30日(土)

場所： 新宿御苑新宿門

詳細報告

ご存知のようにこの会のお世話役は藤盛紀明様・奥様の富美子様・水野賀弥乃様のお3人ですが毎回のように行き届いた素晴らしい企画をして頂き感謝いたしております。



お世話役の下見の結果、この時期の気温、日の陰り等勘案していただき午後3時半集合を3時に変更いつも早めにお集まりになる会員の方々と新宿門を右回りに歩き始めました。新宿駅の喧騒から徒歩数分のところでのこの落ち着いた静けさは今回もほっと溜息をつかせるほど癒されるものでした。（森啓）

伝統芸能の会

開催日：2014年1月19日(日)
 国立劇場初春歌舞伎公演観劇
 題目：辰岡万作＝作『けいせい青陽●』より

詳細報告

(●は集に鳥) 尾上菊五郎＝監修
 通し狂言「三千両初春駒曳」

出演：尾上菊五郎、尾上松緑、尾上菊之助
 中村時蔵、ほか

今回の参加者は30名で、新潟から初参加された会員もおられました。年々参加者の輪が広がってきております。

当日は日本芸術文化振興会の茂木理事長(日本ボストン会元会長)のご挨拶、振興会からの「通し狂言 三千両初春駒曳」(尾上菊五郎ほか)の見どころ等のご説明をいただき、早めの昼食後、正午からの歌舞伎公演を楽しみました。

菊五郎劇団は埋もれていた作品の復活が得意ということで、150年ぶりの通し上演でした。公演修了後は希望者による舞台裏見学も行われ、盛会裏に観劇会を終えることができました。

茂木理事長をはじめとした振興会の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。次回も多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

(吉野静子、滝沢典之)



お花見の会

開催日：2014年4月5日(土)
 場所： 墨田公園

詳細報告

3時半現地集合。わたし達は、青物横丁から京急・都営と乗り継いで浅草に行った。以

前、水上バスを利用したことがあったので、割に簡単にボストン会の人たちと合流できた。集合場所の水上バス付近は意外と人の往来が激しく、同じような旗が幾つか並んでいたもので、すぐにはボストン旗を見つけられなかった。ボストン旗は、もう一回り大きいと見付け易い。浅草寺の雷門が近いので、雷門をキーワードとする間違い易い。お花見会場の隅田公園は桜祭りの真只中。隅田川の両岸の桜が満開。千本桜とか。ソメイヨシノやオオシマザクラが咲いていた。(中埜岩男)



音楽の会

開催日：2014年5月11日(日)

詳細報告

場所： 関幹事宅

ボストンからリサイタル公演のために来日したヴァイオリニストのヨハナン・ケンドラー氏、チェリストのミンフィ・リン女史、それに当会メンバーであるピアニスト大沼岳彦氏のメンバーをお招きして、第9回日本ボストン会ホームコンサートを開催しました。いずれも素晴らしいソロ、デュオ、トリオの演奏で、約30人の聴衆を魅了し、拍手喝采。演奏後の懇親会では、ボストンでの思い出などに花を咲かせ、親交を深めました。

次回は、来年の5月後半か6月早々の開催を予定しています。また音楽の会について、何かご意見、ご希望などありましたら、お知らせください。今後の企画に役立てたいと思います。

(関直彦・尚子)



日本ボストン会事務局 

〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談をさせた頂きたい、事務局までご連絡ください。連絡先：